

平成 15 年 度

**兵庫県立農林水産技術総合センター 年 報**  
**(農業編)**

**兵庫県立農林水産技術総合センター**

# 目 次

## I 組 織

1 位 置	1
2 施 設	1
3 予 算	1
4 機 構	2
5 職 員	3

## II 業 務

1 試 験 研 究	9
(1) 項目一覽	9
(2) 主要な成果	18
(3) 新規に実施した業務	41
2 普 及 活 動	50
(1) 改良普及員の資質の向上	50
(2) 生産振興・地域農業の推進	51
3 教 育 ・ 研 修	58
(1) 養成部門	58
(2) 研修部門	60

## III 業 績

1 普及に移した新技術	63
2 センター研究報告に登載した事項	69
3 外部に発表した事項	70
4 表彰・受賞等	91
5 研究員の派遣	91
6 研修生・見学者の受入れ	92
7 資格・認定研修への講師派遣	96
8 出 版 物	97

# 1 試験研究

## (1) 項目一覧

国庫助成・受託

(※印 抄録掲載)

試験研究課題	研究期間	担当
*タマネギの産地判別法の開発	平15～17	部長(農林水産環境担当)
(1) 無機元素情報による産地判別技術の開発		部長(生物学担当)
(2) DNA増幅断片パターンによる品種判別技術の開発		部長(農林水産環境担当)
野菜における硝酸塩蓄積機構の解明と低減化技術の開発	平14～16	園芸部
(1) 葉面散布等による低硝酸塩化技術		
(2) 野菜による土壌のクリーニング技術		
(3) 現地実証試験		
*主要作物のカドミウム吸収・蓄積を抑制するための総合管理技術の開発	平15～19	部長(農林水産環境担当)
(1) カドミウム多吸収植物の検索		
(2) 栽培管理法の検討		
(3) 現地実証試験		
有機質資源連用試験	継続	〃
(1) 水田(水稻栽培)の土壌管理と地力変動		
*丹波黒大豆規格外品の有効利用(機能高度化実践事業)	平15～17	部長(食品加工流通担当)
(1) 丹波黒大豆規格外品の素材評価		
(2) 丹波黒大豆規格外を利用した加工品開発		
(3) 加工食品の機能性評価		
胚の大量生産による優良牛の増産技術の開発	平13～17	部長(生物学担当)
(1) 体細胞クローン牛の生産効率の向上		
(2) 核移植関連胚の長期保存技術開発		
(3) 核移植再構築胚の正常性の検討		
(4) 受胎率向上のための操作胚の凍結保存技術の開発		
リモートセンシング技術を活用する水稻生産調整現地確認簡略化法の開発	平14～16	作物部
(1) リモートセンシングに基づく転作現況の確認と生育診断		
(2) 詳細メッシュ気候データベースの作成		
(3) 生育診断と詳細メッシュ気候値の利用による収量・品質予測法の開発		
(4) 地域別予測システムの検討		
*兵庫県における小麦有望系統の品質・収量の高位安定化栽培技術の確立	平13～15	〃
(1) 高品質有望品種(系統)の早期選抜のための特性調査		
(2) 生育診断による蛋白質含有率の高位安定化		
(3) 不耕起栽培を導入した作付体系と省力肥培管理技術		
クリーンエネルギーを利用した野菜の生産安定技術	平13～17	園芸部、部長(農林水産環境担当)、病害虫防除部、経営・機械部、北部農技農業部
(1) 雑草、害虫の発生実態の把握と基幹技術導入条件の解明		
(2) 太陽熱、熱水消毒による雑草防除、害虫の密度及び土壌養分集積抑制技術の開発		
(3) 耕種、物理、生物的手法を用いた害虫防除技術の開発		
(4) 養分集積土壌における減肥料管理と低硝酸野菜生産技術の開発		
(5) 耕種、物理、生物的手法を組み合わせた雑草、主要害虫、栄養障害に対する総合技術体系の実証		
新鮮でおいしい「ブランド・ニッポン農産物提供のための総合研究」(短節間トマトの周年栽培における高品質生産技術の開発)	平14～17	園芸部
(1) 新育成系統の生育特性・適応性調査		
(2) 房穫り一斉収穫及び高品質生産のための生育制御技術の確立		
(3) 低樹高の誘引・整枝法の解明と周年栽培の検討		
(4) 閉鎖型育苗システムによる効率的な高品質苗生産		
ナス科野菜の特性検定試験	継続	〃
*生物農薬を核とした施設野菜等の持続的安定生産技術の確立	平11～15	病害虫防除部、淡路農技農業部
(1) 生産者減収許容水準の策定及び病害発生実態の把握		
(2) 微生物農薬の利用法の確立		
(3) 病害抵抗性向上資材の利用法の確立		
*内生細菌利用を基幹としたレタスビッグベイン病防除技術の開発	平15～17	〃

国庫助成・受託

(※印 抄録掲載)

試験研究課題	研究期間	担当
(1) <i>O.brassicae</i> 侵入阻害細菌を用いたレタスピッグベイン病の被害軽減技術の開発 (2) 抵抗性程度の異なるレタス品種の開発 *微生物の防御機能を利用したメロンえそ斑点病防除技術の緊急開発 (1) メロンえそ斑点病防除のためのバイオ資材の開発とその利用技術の確立 *シカなどの農作物被害防止技術と被害軽減型圃場管理技術の実証 (1) シカ等の農作物被害防止技術の実証 (2) 被害軽減型圃場管理技術の実証 *温湯消毒によるクリ果実病害虫防除技術の確立 (1) クリシギゾウムシに対し有効で果実品質に影響を及ぼさない湯温と浸漬時間の検討 (2) 浸漬後の乾燥方法の検討 (3) 温湯消毒による防除法の確立と現場での実証 *カーネーションの養液土耕による省力・高品質・安定生産技術の確立 (1) カーネーション養液土耕システムの確立 (2) 給液管理技術の開発 (3) 給液等プログラムの作成と実証・評価 *種雄牛の遺伝的産肉能力の明確化による合理的肥育技術の開発 (1) 但馬牛の成長ホルモン遺伝子多型と育種価及び産肉性との関連性の検討 (2) 各成長ホルモン遺伝子型牛における成長ホルモン分泌能検討 (3) 各成長ホルモン遺伝子型の肥育方法の開発	平15~17 平14~15 平15~17 平13~15 平11~15	病害虫防除部、淡路農技農業部 病害虫防除部 病害虫防除部、北部農技農業部、経営・機械部 病害虫防除部 淡路農技農業部、部長(農林水産環境担当) 家畜部

県 単

(※印 抄録掲載)

試験研究課題	研究期間	担当
地域特産物における効果的で安全な農薬使用技術の確立 水稲・麦に対する堆肥及び肥料三要素試験 (1) 水稲・麦に対する堆肥及び肥料三要素試験 (2) 水稲に対する堆肥連用中止ほ場の残効試験 (3) 地力の異なるほ場における水稲生産性の経年変化 水稲に対する堆肥及び有機質資材・肥料連用試験 (1) 牛糞尿オガクズ堆肥連用効果 (2) 有機質資材ならびに有機質肥料の影響 野菜栽培および食品廃棄物堆肥化における微生物資材等の効果検定と利用方法 (1) 微生物資材利用実態調査 (2) 食品残渣等の腐熟促進効果の判定 (3) イチゴ等果菜類に対する利用効果の判定 農業公害対策調査 農酵素標識免疫測定法(ELISA)法を利用した簡易残留農薬分析法の開発 各種遺伝資源の利用による「丹波黒大豆」への病害抵抗性付与技術の開発 (1) 黒大豆栽培圃場からの土壌伝染性病原菌の採取とレースの分類 (2) 抵抗性遺伝子導入のための系統の育成	平13~17 継 続 継 続 平15~17 継 続 平12~16 平14~18	部長(農林水産環境担当) 〃 〃 〃 〃 〃 部長(生物工学担当)

県 単

試 験 研 究 課 題	研究期間	担 当
遺伝子診断を利用した酒米育種と栽培評価システムの開発 (1) DNAマーカーによる選抜技術の構築 (2) 酒米品質向上のための登熟生理の解明	平14～18	部長 (生物工学担当) 〃
有用遺伝子の探索と利用技術の開発 (1) 新規P450遺伝子の有効性の検討 (2) 花卉類の形質転換系の確立	平13～22	〃
生物工学的手法を用いた農業生産振興対策試験 (1) 地域特産物のウイルスフリー化と大量増殖技術の開発 (2) レタスピッグベインウイルスの検出	平13～17	〃
有用植物遺伝資源の収集保存試験	継 続	〃
農業に関するアイソトープ利用試験	継 続	〃
生殖細胞DNA診断技術の開発による優良牛の早期選抜 (1) 生殖細胞を用いたDNA診断技術の確立 (2) 生殖細胞のDNAの遺伝様式の解明 (3) DNA診断胚の生存性の向上 (4) DNA診断胚の超低温保存技術の確立 (5) DNA診断胚の移植試験	平13～17	〃
県産ブランド米の高品位栽培・流通技術の開発 (1) 米の品質評価及び機能性評価 (2) 米の加工適性評価及び加工品の開発 (3) 米の高品位流通技術の開発	平13～16	部長 (食品加工流通担当)
*兵庫ブランド農産物の機能性評価など優位性実証技術の開発 (1) 特産農産物の品質特性の調査 (2) 特産農産物の特性を生かした保存、加工法の確立	平13～15	〃
新製品開発試験 (1) 現地相談等対応試験 (2) 地域色を生かしたワイン製造：マルメロワインの開発 (3) 第Ⅱ期ひょうご豊かな米作り推進対策関連試験	継 続 平15～16 平13～17	〃
但馬水産加工技術開発試験 (1) 灰干しわかめ進化工技術開発試験 (2) 水産物の流通加工過程におけるHACCP対応技術開発試験	平12～16 平13～16	但馬水技、部長 (食品加工流通担当)
*中国広東省との共同研究による安全・安心な米づくりのための病害虫抵抗性品種の育成 (1) 遺伝子の集積による良質、良食味、耐病虫性品種の育成 (2) 日中交雑交代選抜並びに戻し交雑による多収、対処性、耐病性良食味品種の育成 (3) 育成系統の早期実用化	平15～19	作物部 〃
奨励品種決定基本調査 奨励品種決定基本調査 (水稲・麦・大豆)	継 続	作物部、北部農技農業部
原々種栽培 原々種栽培 (水稲・麦・大豆)	継 続	作物部、作物部 (酒米試験地)、北部農技農業部
作物品種改良試験 (1) 水稲新品種育成試験 (2) 無エルシン酸ナタネ品種比較試験	継 続 平14～16	作物部
作物栽培法改良試験 (1) キヌヒカリの乳白・心白米低減技術の確立	平14～16	〃
* (2) 不耕起狭条無培土栽培による大豆省力安定多収生産技術の開発	平13～15	
* (3) 携帯型葉中窒素測定装置利用による栄養診断法の確立	平13～15	
(4) 気象感応調査 (水稲・麦)	継 続	
酒造好適米の品質評価方法の開発と利用 (1) 酒米の微量簡易酒造適性判定法の開発と有望系統の評価 (2) 新評価法の応用による新品種の育成及び栽培技術の確立 (3) データバンクの構築	平11～17	作物部 (酒米試験地)、部長 (食品加工流通担当)
酒米改良試験		作物部 (酒米試験地)

県 単

試 験 研 究 課 題	研究期間	担 当
(1) 酒米新品種育成試験 (2) 掛米専用品種の育成 (3) 酒米の気象感応調査 (4) 極早生酒米品種の品質向上技術の開発 (5) 酒米玄米形質の遺伝解析	継 続 継 続 継 続 平14～16 平14～16	作物部（原種農場）
原種生産管理改善試験 (1) 大豆の発芽安定化試験 (2) 種子の貯蔵性向上試験	平13～16 平15～26	
* 新方式高設隔離床栽培によるイチゴの環境負荷軽減型生産体系の確立 (1) 高設隔離床栽培装置の開発 (2) 環境負荷軽減型生産体系の確立 (3) 新生産体系による栽培実証	平12～15	園芸部
夏秋ギクの生産性向上と省力生産システムの開発と実証 (1) 生産性向上技術の開発 (2) 省力生産システムの開発 (3) 技術の組み立て実証及び現地実証	平14～16	◇
* シンテッポウユリの作型開発と機械定植栽培技術の確立 (1) 10～11月開花の抑制栽培技術 (2) 機械定植に対応したセル成型育苗 (3) 技術の組み立て実証	平13～15	◇
イチジクの超早期成園化による増収技術の確立 (1) 整枝せん定法及び新梢管理法の開発 (2) 若木の着果及び収量安定化 (3) 超密植に適した樹型の検討 (4) 成園化後の追跡調査 (5) 超早期成園化のマニュアル作成と経済的評価	平13～17	◇
* 観光・直売に適した大粒系ブドウ品種の選定と安定供給技術の確立 (1) 観光・直売に適した大粒系ブドウ品種の選定 (2) 選定品種の高品質安定生産技術	平15～17	◇
野菜園芸改良試験 * (1) 少量培地隔離床栽培によるトマトの栽培技術の確立 (2) 果菜類の環境と調和した持続的栽培技術の確立と実証 (3) 生分解性資材による露地マルチ栽培の収量安定性とその向上策 (4) 果菜・葉菜類の作型別適品種の選定と栽培法の改善	平13～15 平14～18 平14～16 継 続	◇
花き園芸改良試験 (1) 花き類の新品目開発、優良品種の選定及び栽培方法の改善 (2) 大輪バラの一定長収穫法による良品多収技術の開発と実証	継 続 平14～17	園芸部、淡路農技農業部
* (3) 切り花（カーネーション、バラ）の栽培管理と流通技術の開発による日持ち保証マニュアル作成 (4) 花壇苗標準培養土の改善	平15～17 平15	
果樹園芸改良試験 * (1) クリの省力安定栽培技術の確立 * (2) ブドウの垣根整枝における高品質果安定生産技術の確立 * (3) モモの樹勢制御による品質向上技術 (4) 兵庫ブランド果樹確立に向けた優良品種地域適応性検定試験	平15～17 平11～15 平13～15 継 続	園芸部
葉草改良試験 * (1) トウキ苗の安定生産と収益性向上	平13～15	病害虫防除部
病害抵抗性品種と内生細菌の相互反応による病害制御技術の開発 (1) 病害抵抗性向上現象の解明 (2) 内生細菌とトマト品種との関係 (3) 内生細菌とハクサイ品種との関係	平13～17	
カメムシ類のフェロモン及び誘引物質の探索とその利用法の開発 (1) 斑点米多発地域におけるカメムシ類の種類と発生消長 (2) 防除対策の検討	平13～17	◇

県 単

試 験 研 究 課 題	研究期間	担 当
(3) フェロモン・誘引物質の検索と利用 昆虫機能を利用した害虫の安定的防除技術の開発 (1) 光を利用した害虫防除 (2) 天敵利用法の確立 (3) 性フェロモンを利用したハイマダラノメイガの予察法の確立 (4) 種内、種間作用機構を利用した害虫防除	平13～17	病虫害防除部
病害虫防除試験 (1) イネ内穎褐変病の発生生態と防除 * (2) 黒ダイズ茎疫病の発生生態と防除法の開発 * (3) コムギ赤かび病の総合防除体系の確立 (4) 臨機対応が求められる害虫の原因究明と防除対策	平14～16 平15～17 平15～17 平14～17	〃
* 小規模野菜産地における産直・地場流通システムの構築 (1) 小規模産地野菜作農家の特徴と集出荷組織化の問題点の明確化 (2) 小規模産地における直売組織の成立条件と運営管理法の解明 (3) 小規模産地の情報発信とシステム化	平13～15	経営・機械部
特定需要向けレタスの経営方式と省力機械化体系の確立 (1) 特定需要向けレタスの経営動向及び市場動向調査 (2) 特定需要向けレタスの栽培技術の確立 (3) 特定需要向けレタスの省力機械化体系の確立 (4) 特定需要向けレタスの現地実証と経営評価	平14～16	経営・機械部、園芸部
農業経営試験 * (1) 耕種農家の堆肥施用条件の解明 (2) 傾斜畑造成による麦・大豆栽培の効果算定と集落営農への導入条件 (3) 経営モデル分析による営農展開方策の検討	平14～15 平14～16 平14～16	経営・機械部
農業機械化試験 (1) 地域特産作物等の省力機械化・軽労働作業技術の開発 (2) 土壌モルタル管理道の耐久性と維持管理法 * 黒毛和種去勢牛の育成時における発育速度が産肉性に及ぼす影響 (1) 育成時の飼料給与パターンの違いと子牛の発育の検討 (2) 育成時の飼料給与パターンの違いと肥育成績の検討	平15～16 平14～17 平10～15	〃 家畜部、北部農技畜産部
但馬牛の遺伝学的改良手法の開発 (1) DNAマーカー（マーカー）を用いたQTL解析 (2) 統計遺伝学的手法による検討	平13～17	家畜部
消費者の求める美味しい牛肉の評価基準の開発 (1) 植物性製造粕の美味しさ成分への影響の検討 (2) 美味しさに関する成分の検討 (3) 牛肉脂肪の簡易評価における光学的技術の応用性の検討 (4) 美味しさ成分の遺伝的影響の検討 (5) 給与飼料中の穀物形状が美味しさ成分へ与える影響の検討 (6) 美味しい牛肉の評価基準の実用化への検討	平14～18	〃
* 但馬牛理想肥育牛の発育生理に基づく合理的な飼養管理技術の開発 (1) 導入時及び肥育前期の栄養状態と産肉性との関連の検討 (2) 肥育素牛の栄養状態に応じた肥育初期給与エネルギー水準の検討 (3) 肥育中期の給与エネルギー水準の検討 (4) タイプ別飼養マニュアルの作成と実証試験	平15～19	〃
超早期母子分離子牛の育成後の繁殖性と肥育性の検討 (1) 育成期に給与する配合飼料の粗蛋白含量の違いが肥育性に及ぼす影響 (2) 3～7か月齢の発育速度の違いが肥育性に及ぼす影響	平15～18	〃
「ひょうご味どり」の経済形質遺伝子検索による生産性の向上 (1) 選定されたDNAマーカーの育種改良への応用 (2) 体重及び腹腔内脂肪蓄積の関連遺伝子の検索 (3) 遺伝子診断を利用した種鶏の選抜	平13～17	〃
家畜用飼料として利用可能な食品産業廃棄物の検索と飼料化技術及び実証試験	平13～17	〃

県 単

試 験 研 究 課 題	研究期間	担 当
(1) 食品産業廃棄物の家畜用飼料としての適性評価 (2) 家畜用飼料としての代替割合の検討 *生態系及び光触媒を利用した畜舎内臭気軽減化技術 (1) 酸化チタンによる脱臭効果の検討 (2) 脱臭装置による脱臭効果の検討 (3) 悪臭成分低減効果の高い植物等の選定と利用法の検討	平15～17	家畜部
*野菜栽培における吹き付けマルチ敷設法の開発と利用技術の実証 (1) 吹き付けマルチに適した資材の探索 (2) 吹き付けによるマルチ敷設法の開発 (3) 吹き付けマルチによる野菜栽培の検討	平13～15	北部農技農業部
*ナシの密植・2本主枝による省力・高品質多収栽培技術の確立 (1) 2本主枝による省力多収栽培のための側枝管理法 (2) 2本主枝における高品質果実生産のための着果管理法 (3) 2本主枝整枝における省力化と経営改善効果	平12～15	〃
*ピーマン白絹病菌の生活環の究明と防除技術の確立 (1) 白絹病菌のピーマン栽培における生活環の究明 (2) 白絹病防除技術の確立	平13～15	北部農技農業部
但丹地方における農作物の品種並びに栽培法改善 (1) 水稲気象感応調査 (2) 持続性の高い水稲栽培法の確立と実証 (3) 「コシヒカリ」の乳白米対策試験 (4) 持続性の高い黒大豆栽培法の確立	継 続 平14～17 平14～16 平13～16	〃
* (5) 枝豆向き丹波黒早生優良品種の選定	平15～17	
* (6) 中山間傾斜地ほ場における熱水土壤消毒利用技術の開発	平13～15	
梨等地域特産果樹改良試験 (1) ナシ気象感応試験 (2) 但馬丹波地域に適するナシ品種の選定 (3) ポスト二十世紀梨の選定と栽培実証	継 続 平11～18 平14～17	〃
新育種手法開発調査試験 (1) 育種価評価による種牛の遺伝的産肉能力の推定 (2) 但馬牛改良データベースの構築	継 続	北部農技畜産部
*妊娠放牧牛の栄養度の推移が産子の発育及び繁殖性に及ぼす影響 (1) 育成牛の放牧飼養の実証 (2) 育成牛の1日当たり増体量と繁殖性の検討 (3) 放牧未経験経産牛の放牧飼養の実証	平13～15	〃
超早期母子分離子牛の育成後の繁殖性と肥育性の検討 (1) 育成期に給与する配合飼料の粗蛋白質含量の検討 (2) 育成期における発育速度の検討	平14～18	〃
*凍結保存優良但馬牛胚の受胎率の向上現場実証 (1) 新規排卵同期化法の開発 (2) 処理開始時のエストロジェン投与量の検討 (3) 定時胚移植技術の開発	平14～16	〃
*繁殖雌牛の哺育能力の早期判定法の確立と実証 (1) 哺育初期における泌乳量の早期判定法の確立 (2) 母牛の体型が泌乳能力に及ぼす影響 (3) 血統構成が哺育能力に及ぼす影響 (4) 哺育能力に応じた子牛管理の実証	平15～17	〃
*特産露地野菜の気象変動に対応する補完的簡易施設を利用した安定生産技術の確立と実証 (1) 気象変動に対応する苗生産体系の確立と実証 (2) 全天候型開閉式育苗施設の改善	平13～15	淡路農技農業部
*切り花の栽培管理と流通技術の開発による日持ち保証マニュアル (1) 栽培環境と日持ちの関係の解明 (2) 日持ち保証マニュアルの作成	平15～17	〃



県 単

試 験 研 究 課 題	研究期間	担 当
カンキツ、ビワの需要変化に即応できるフレキシブルな果樹園システムの開発	平13～17	淡路農技農業部
(1) 大容量プランターによる新栽培システムの開発 (2) 新栽培システムにおける高品質栽培技術の確立 (3) フレキシブルな果樹園システムのマニュアル化		
淡路地方の園芸作物の品種栽培試験		淡路農技農業部
(1) 特産および新特産野菜の種類、品種選定と栽培改善	継 続	
(2) タマネギの高品質生産体系の確立	平15～17	
(3) カーネーションの長期連作が収量品質および土壌の変化によぼす影響	継 続	
(4) カーネーションの品種の選定	継 続	
(5) 一・二年草、宿根草による景観形成と園芸利用	平14～18	
(6) 耕種的・物理的害虫防除技術の開発	平15	
* (7) 低樹高ビワ園の安定生産技術の確立	平11～15	
(8) 新特産果樹の種類及び品種の選定	継 続	
(9) 淡路地域における環境負荷軽減及び省力化のための野菜病害虫効率的防除法の確立	平13～17	
* (10) 性フェロモン交信攪乱を用いたレタスのヨトウムシ類防除	平13～15	
環境負荷低減と効率的生産を両立するための乳牛飼養技術の開発	平13～17	淡路農技畜産部
(1) 最も効率の良い濃厚飼料のタイプ別給与順序の検討 (2) ルーメン発酵最適化を実現する新給与システムの開発		
* 乳用牛の生産性を高める哺育育成技術と栄養モニタリング技術の確立と実証	平13～15	◇
(1) 哺育期の飼料給与法 (2) 育成期の飼料給与法 (3) 乳用育成牛の発育指標としての栄養モニタリング技術		
家畜ふん尿処理と利用技術の確立と実証	平13～17	◇
(1) 深型攪拌式乾燥発酵装置の性能調査 (2) 尿の悪臭防止対策		
* 乳牛の生涯生産性向上を目指した施設改善技術の確立と実証	平15～18	◇
(1) 酪農家施設の実態調査 (2) 削蹄による生産性向上効果の検討		
《プロジェクト研究》		
農林水産物・食品残渣の有効利用技術の開発	平14～16	
(1) 大豆加工廃棄物及び回収有価物の利用法 (2) 農林水産物・水産加工残渣の有効利用技術 (3) 食品産業廃棄物を利用したキノコ栽培と機能性食品への利用		部長（食品加工流通担当） 部長（食品加工流通担当） 森林林業資源部
農林水産業が持つ環境浄化機能の開発	平14～18	
(1) 水田・ため池の持つ窒素浄化能の評価浄化能の評価と浄化技術の開発 (2) 人工衛星データによる農林水産水域の水質モニタリング手法の開発		部長（農林水産環境担当）  森林林業資源部、水産技術資源部
農林水産業による景観・アメニティー・ビオトープ空間の創出	平14～18	
(1) 景観・ビオトープに配慮したため池、畦畔の管理方法の評価と実証		部長（農林水産環境担当）、 作物部、北部農技農業部
① ため池の現状把握と景観の評価 ② 管理技術の実証 ③ 畦畔雑草の生態調査と管理方法の開発 ④ 畦畔法面へのシバ類吹き付け植栽の適応性の実証		
(2) 景観・ビオトープに配慮した里山林の管理方法の評価と実証	平14～18	園芸部、森林林業資源部
① 景観を高める果樹の植栽による里山林の活用等の促進 ② 林縁、畦畔等の管理状況と現植生の把握 ③ 草原・林縁植物の生育空間の創出		

県 単

試 験 研 究 課 題	研究期間	担 当
(3) 幼稚仔魚のピオトープとしての渚の機能の解明 (4) 間伐材を利用した環境畦畔の耐久性と防腐剤、防蟻剤の作物への影響調査	平14～18 平14～18	水産技術 部長（農林水産環境担当）、 森林林業資源部
* 農林水産業の副産物あるいは廃棄物の炭化をはじめとした各種資源循環利用法の開発 (1) 有機性廃棄物由来炭素の野菜栽培への施用効果  (2) 樹皮等を利用した炭化物の特性把握	平15～17	部長（農林水産環境担当）  部長（農林水産環境担当）、 淡路農技農業部 森林林業木材利用部、資 源部
農林水産業における海洋深層水の利用技術の開発 (1) 但馬沖深層水に関する研究 (2) 但馬沖海洋深層水を利用した地域特産物の付加価値化	平14～18	但馬水技 森林林業資源部
中山間地域における獣害防止技術と被害軽減型圃場管理技術の実証 (1) シカ等の農作物被害防止技術の実証 (2) 被害軽減型圃場管理技術の実証	平14～18	北部農技農業部、病害虫 防除部、経営・機械部
兵庫県におけるニホンジカの生息密度推定法の開発 (1) 生息密度推定法の確立 (2) 生息密度と被害発生量の調査 (3) 被害防止技術に関する調査	平13～17	森林林業資源部

受 託

試 験 研 究 課 題	委 託 機 関	担 当
国際協力事業団研修 ほ場整備前の土壌調査 タマネギ皮ケルセチンの保存料としての利用法開発 〔「兵庫ブランド農産物の機能性評価など優位性実証技術の開発」で実施〕	国際協力事業団 山崎町、浜坂町 JAあわじ島	部長（農林水産環境担当） ◇ 部長（食品加工流通担当）
イチゴの栽培における緑色蛍光灯の効果	(社) 農業電化協会 兵庫地区運営委員会	園芸部
ハウス栽培におけるコマツナ（品種）の適性品種選定 育苗技術の高度化によるトマト低段密植栽培の高品質多収化技術開発技術の確立	(社) 日本種苗協会 太洋興業株式会社	◇ ◇
* 温湯消毒によるクリ果実病害虫防除技術の確立	(独) 果樹研究所	病害虫防除部
新農業応用試験	兵庫県植物 防疫協会	作物部、園芸部 部長（農林水産環境担当）、病 害虫防除部 北部農技農業部、 淡路農技農業部
* ハーブ牛乳の効率的生産と消費拡大技術の開発	天野実業（株）	淡路農技畜産部
露地野菜に対する施肥効率向上技術の確立試験 青色光によるキクのヤガ類防除	全農兵庫県本部 農電協会兵庫 地区運営委員会	淡路農技農業部

事 業

試 験 研 究 課 題	依 頼 機 関	担 当
ひょうご安心ブランドに係わる残留農薬分析	普 及 教 育 課	部長（農林水産環境担当）
農薬残留対策総合調査	〃	〃
土壤汚染調査協力	〃	〃
環境負荷軽減に配慮した施肥基準の策定、改訂	農 産 園 芸 課	〃
モニタリング調査	〃	〃
有機質資源施用基準設定調査	〃	〃
地力増進対策診断指導事業	〃	〃
土壤図の更新	〃	〃
土壤機能対策事業	〃	〃
集落排水汚泥コンポストの農地施用による土壤・作物体への影響	農 村 環 境 課	〃
畑作対応水田基盤管理技術策定調査	農 地 整 備 課	〃
ため池の水質調査	農 村 環 境 課	〃
消費者食糧農業啓発推進事業	課 長（消費流通担当）	部長（食品加工流通担当）
ひょうごブランド商品育成事業		
兵庫の「食」ブランド化推進事業		
主要農産物生産・供給対策	農 産 園 芸 課	作物部、部長(食品加工流通担当)
第II期ひょうご豊かな米づくり推進対策事業		
野菜振興対策事業	〃	
業務用需要対応野菜安定供給推進事業		
花き・果樹特産振興対策	農 産 園 芸 課	
兵庫の果樹・茶産地レベルアップ事業		
※原種圃設置事業	〃	作物部（原種農場）
※委託原種圃設置事業	〃	〃
※麦・大豆原種生産対策事業	〃	〃
奨励品種決定調査事業	〃	作物部、北部農技農業部
病虫害発生予察事業	普 及 教 育 課	病虫害防除部（病虫害防除所）
病虫害防除対策事業	〃	〃
※鶏能力検定推進事業	畜 産 課	家畜部
※肉用牛産肉能力検定事業	〃	北部農技畜産部
(1) 直接検定成績		
(2) 現場後代検定成績から得られた種雄牛の育種価		
※家畜人工授精事業	〃	〃
但馬牛改良推進対策事業	〃	〃
優良乳用雌牛効率生産推進対策事業	〃	淡路農技畜産部
乳用牛群検定普及定着化事業	〃	〃

